

第3回 名古屋港長期構想検討委員会

議 事 要 旨

1 日時 令和7年8月28日（木）9：30～11：30

2 場所 TKP名古屋駅前カンファレンスセンター【ホール8A】（WEB併用）

3 議題

- ・第2回検討委員会の意見と対応
- ・名古屋港長期構想の中間案

4 主な議事

- ・事務局から、資料1「第2回検討委員会の意見と対応」を説明し、その内容が確認された。
- ・事務局から、資料2「名古屋港長期構想の中間案」を説明し、委員から意見を頂いた。

5 委員からの主な意見

（中間案全体）

- ・本日表示された中間案は、これまでの多様な意見をうまくとりまとめ、全般的にわかりやすく丁寧に書かれている。
- ・中間案に書かれているとおり、名古屋港はポテンシャルが高く、港本来の機能として期待されているところは、この方向性で間違いない。
- ・ポートアイランドの方向性が示されたことや、一宮西港道路及び名古屋三河道路の検討熟度を踏まえると、名古屋港は、今後もまだポテンシャルが上がり得る港湾であると改めて思った。
- ・3つの将来像のすべてに、安全、安心があるというのがしっかり見えており、とてもいい方向性である。

(環境変化)

- ・生産年齢人口はすでに減少しているが、労働力人口は 2040 年以降減少基調になることを踏まえ、正確な内容に修正した方がいい。

(基本理念)

- ・“物流で日本をひっぱる”の物流は、先進的な物流技術の面においても引っ張っていく意味合いが含まれていることを文章で示されると良い。

(将来像)

- ・将来像にある“世界の成長するエリアとフレキシブルにつながっている”について、地政学リスクがあるなかで世界のいろいろな国とつながることと、日本のハブにもなることが表現できると良い。

(施策の方向性)

- ・施策の方向性にある“みなと”と“まち”のつながりを意識した交流拠点の形成について、もう少し具体的なイメージが分かる書き方がされると良い。
- ・災害リスクという言葉は、人によって捉え方が異なるので、丁寧に説明した方が良い。
- ・名古屋港は、南海トラフ巨大地震発生時に、復旧復興の要となる位置付けだと認識しているが、その観点があるといい。

(空間利用の方向性)

- ・施策を展開していく時期を整理すると、関わる人々の将来的な取組の目安になる。

(実現に向けて)

- ・中部地域をリードする名古屋港が、背後圏を同じくする伊勢湾の港湾との連携を深めていくことが、地域全体の国際競争力の強化に不可欠である。
- ・多様化する課題やニーズに合わせて、常に体制や組織をアップデートしていくということは、非常に重要である。
- ・長期構想の実現に必要な執行体制の構築をしっかりとし、効果が最大化するように進めていただきたい。

- ・港に関する教育という観点からは、海に関心を持ってもらい、海の怖さを知ってもらうという点で必要だと思う。
- ・長期構想の実現に向けては、今後、実現に向けた具体計画を策定していくことが大事になってくるので、協力していきたい。

(長期構想の実現に向けた取組)

- ・国土の発展に貢献する港湾という観点で、諸計画の具体化に向けた検討や、大規模な投資に耐えうる財政基盤の強化について、検討いただきたい。
- ・ポートアイランドに仮置土砂が積まれているが、震災により崩れて航路が塞がると、港自体は機能していても、船が入れない状態になるので、しっかりと対応してほしい。
- ・名古屋港のコンテナターミナルは、24時間体制の柔軟な荷役により、航路サービスの定時制の確保に非常に寄与している。既存のシステムにAIやIoTを加えて、より効率的で柔軟なサプライチェーンの維持に貢献していきたい。
- ・ガーデンふ頭の再開発や中川運河の再生に向けた取組、水上交通について、積極的に協力していきたい。